

JIA2050 カーボンニュートラル連続セミナー第2期第6回（鈴木 大隆 先生） Q&A Report

No.	質問ソース	質問内容	回答
1	チャット	省エネ基準がUA 値と一次エネルギーによることに疑問があります。  地域産材、改修を主とする、100 年建築、自然素材など LCCO2 を指標とする方向が重要だと考えますが先生のお考えをお教えてください。	まず基準・基準指標は万能ではなくどんな場合も一長一短があります。また設計の創意工夫の全てが基準で評価されるべきとも思えません。いまの省エネ基準は建築のつikai部分だけの評価対象としていますが、つくり・つikai・なおし・こわすことを全て評価できる LCCO2 はある意味、省エネというより建築の環境負荷・脱炭素化という観点では理想的な評価法だと思いますが、それを実務の世界で展開するには日本ではさまざまな課題があります。間違い、性能偽装があつてはどんなにいいものも後退しますので、どこまで何を評価するのか、その目的も考えながら、急ぎすぎずじっくり育てていくべきものと考えています。
2	チャット	中村様のコメントとても共感いたします。鈴木先生も先ほど第3の基準と表現なさっていましたね。	——
3	チャット	鈴木先生、ありがとうございました。	——
4	チャット	久しぶりに心に沁みる講演を聴かせて頂きました。どうも有難うございました。	ありがとうございます
5	チャット	北海道といえば：昔、ある小説でアイヌ人の「和人は家に金をかけすぎる」というセリフがありました。	——
6	チャット	心温まる講演でした。ありがとうございました。2100年の人口減少、高齢化に改めてまた違う課題も見えています。五感にうったえる環境建築を目指してゆきたいと思います。建築家が育むことができること、心に刻んでこれからも建築を志します。質問ですが、地域の基準つくり、バージョンアップしていける仕組みが課題にもなると思いますが、何かアドバイスがあればお聞かせください。	ありがとうございます  地域の基準作りは、行政がつくるものと考えているかもしれませんが、これからはそうではないと思います。みなさんがまずは自分たちのために地域のありよう、指針を考える、そしてみんなで地域の基準としてつくりあげていく、行政ばかりでなく産官学でつっていくべきものではないでしょうか。提案には責任が伴いますが、誰かに任せるとはなく、みなさんが主体となりながらまず一歩進むことだと思いますね。

JIA2050 カーボンニュートラル連続セミナー第2期第6回（鈴木 大隆 先生） Q&A Report

7	チャット	コンパクトシティの有効性に疑問があります。スプロール化した町の郊外から内部へ強制的に移住させることはできません。自然の中で最後まで暮らしたい気持ちを大事にすることが必要です。また、中心を壊して400%の都市をつくる解体と新築のCO2消費は膨大なもので、その後の運用でのCO2削減では40年以上かかるという計算もされています。できるだけ現在あるものを利用しながら、小さな環境世界で自給自足をすることが必要と思います。いかがでしょうか	簡単に移住ができない、過去のコンパクトシティをみても失敗が多い、そんな簡単なものでない、誠に同感です。ただ、今後、急速に進行する人口減少・高齢社会において、高度経済成長期に拡大した生活空間の広さは不要なわけですし、まちの経営コストを考えてももたないことは明らか。エネルギーや資源の自給自足は簡単なものではないですがこれからを考えると目指すべき方向であることは間違いなく、そのために建築・都市の無駄をなくすることが重要、大切で、コンパクトシティという形にだけにとられる必要はないし、それだけでは解決にはつながらないと思います。
8	チャット	スイスの建築確認について、驚きました。でもそうあって欲しいと思いました。きっと市民が建築に対する興味や関心が高いということなのですね。	この話を聞いたときそう思いました。つくる側もくらす側にも、それを受容する意識改革が重要です。そこにいきつくには日本はまだ時間がかかるかもしれません。
9	チャット	図書館を街のコアにする、という手法も有る様ですね。	生活、教育、医療、福祉、それらのコア施設、そのまちの事情にあわせ、さまざまな手はあると思います
10	Q&A	「有限の場所」ってどういう場所ですか？	場所はみな有限ですが、ここでは「他に代えることができない、その場所限りの」という意味でつかっています。
11	Q&A	ドイツの20m以下の建物は省エネ基準の適用外というのは素晴らしい。	——
12	Q&A	省エネ改修させることで経済を回す。矛盾があります。経済から環境へシフトする時代。都市では再開発が止まらず炭素量が減りません。大事な建物を壊し、CO2を排出し、建築ゴミを増やすことにブレーキが必要と感ずります。壊すことを、制限する法制度は考えていませんか？	こわし・つくる循環から、つかい続ける循環に変えていくためには、文化遺産を除き、欧米の建築ストックがそうであるように、つかう魅力を向上させるための機能・性能向上が必要で、環境負荷を抑えた合理的改修が必ず必要になると思います。壊すことを制限するには環境問題からだけではない合理性が必要ですが、私自身は直す魅力を訴えることで、無駄な破壊防止に貢献していきたいと思っています。
13	Q&A	地域を良く見る、良く感じるという、とても有意義なお話でした。	ありがとうございます。

JIA2050 カーボンニュートラル連続セミナー第2期第6回（鈴木 大隆 先生） Q&A Report

		<p>今日のお話の、五感を重視するということが、今は建築材をはじめとして食料まですべて海外に頼るなど、地域を離れてしまっていて過ごしている人々も多くなり、地域を良く知る、住まうという人間が少なくなっていることが、とても大きなハードルになっているように思います。</p> <p>地域への密着度の有無について、何かこれからの指針となるようなことはありますでしょうか？</p>	<p>これまでの経験から、単に意匠だけでない低負荷で五感にうったえる個人資産としての建築をしっかりとつくる・なおし数を多くしていくことが重要と思いますが、</p> <p>地域共有の財産である学校建築を丁寧に地域に残していく（なければ、つくる、なおす）、そしてY地域で育てていくというのは、非常に有効な手段だと感じています。</p>
14	Q&A	<p>素晴らしいお話ありがとうございます。風景を保つ、地域力をはぐむという事はとても大事だと思います。また風景が保たれている地域が多い欧米や「20m以下の建物、適用外というドイツの基準」も、地域の方の風景を残す価値が「高さ」から来ているようにも思います。新しく建設される建物に対して地域の方々が意見を出しながら設計をすすめるという欧米のシステムを取り入れている地域というのはあるのか、またそういう方向に向かう議論というのはあるのでしょうか？</p>	<p>単に使用側のみならず、地域が声を出しながらつくり上げていく建築として、真っ先に思い当たるのは学校建築ですね。そのような建築が案外ほかにもあるのではないのでしょうか。</p> <p>スイスでは建物のアウトラインを示し、周辺の方々の意見を聞く、それで問題なければ建築許可が下りると聞いたことがあります。またストックホルム市街地の再開発などは、市街地のスケールモデルのなかにそれを落とし込んで多方面の専門家が問題点を洗い出し決めていくそうです。</p> <p>この前の質問とも関係しますが、そういう丁寧なものつくりのプロセスはこれからの建築には非常に大切だと思います。</p>
15	Q&A	<p>ドイツでは文化的価値のある建物が基準適用外とのことでしたが、文化的価値として建築で認めていける認定基準が多くの一般建築にも認められているのでしょうか。</p>	<p>確か、建物用途は限ってないはずですが。ただ、単に何が使われている、どんな構造だからという認定基準に基づき文化的かどうかを即物的に判断するのではなく、当該建物が真に文化的価値があるのか、そして省エネなど他の新築と同じ性能付与を課す必要がないのか、行政内部や時に住民も巻き込んで議論し決めていく、案件によってはその議論にかなり時間がかかる場合もあると聞きました。多様性を考え簡単には決まらない、決めない、それは当然なことだと思います。</p>
16	Q&A	<p>町、市街地の再生ですが、コンパクト化は膨大な解体と建設によるCO2排出量が想定されます。既存の市街地再開手法は逆ですね。脱炭素で魅力的な都市再生の手法の開発が必要だと思います。東京等での大規模再開発は大問題ですね。札幌ではどうですか。</p>	<p>前半に対するコメントは12の回答を参照。</p>

JIA2050 カーボンニュートラル連続セミナー第2期第6回（鈴木 大隆 先生） Q&A Report

			都市の再開発は、どの都市でも起きていることです。札幌は 2030 年北海道新幹線開通に向けて、さかんに再開発が進んでいます。それを無駄にしないためにも、これからの 50 年、100 年再び直さなくてよいまちができれば、できなくてはならないと期待しています。
17	Q&A	<p>何故、資源が乏しく地震、噴火、津波、台風など頻繁に起きる災害の多い日本列島への建設投資が衰えないのでしょうか。地球規模の LCA 的には、マイナスでは無いのでしょうか？</p> <p>人口集積が高く、技術力が圧倒的に高く、四季のある気候という特性からなののでしょうか。又はそれ以外の要素でしょうか？</p>	<p>日本の自然は豊かですが、決して優しくありません。災害が起きる、起きやすい領域に人の暮らしが入り込んだことで、近年、その境界部分で数多くの様々な災害が顕在化していると思います。</p> <p>しかし、これまでもお話ししているように、これからの人口減少を踏まえたまち・建築の再構築で、ふたたび災害を繰り返さない社会に是正していくしかないのではないかと考えます。</p>
18	Q&A	<p>太陽光と断熱の関係をもう少し考えたいと思いました。</p> <p>特に既存住宅の場合、屋上や壁面の反射塗料でもかなり効果があるのではないかと思います。</p> <p>何か情報がありましたらお願いします。</p> <p>また、既存の戸建や集合住宅での窓の断熱性を上げる方策についての考えがありましたらお願いします。</p>	<p>それだけで 1 時間ぐらいの講習会になります。ただ今日は時間がないのでごく簡単にいいますと、反射塗料、日射制御部材は、建物の用途、地域によって効果的な場合と足を引っ張る場合もあります。暖房より冷房が多く、かつ屋根・外壁面積率が多い、空調された大きな工場や倉庫、内部発熱が大きく冬でも冷房する中高層ビルなどでは、それらのものは、空調負荷の面からおそらく効果的でしょう。ただ、それ以外の住宅などの建築物では北海道から鹿児島までは、基本、冷房より暖房負荷が多いので、それらの導入は慎重になるべきですね。夏が暑いので有効と単純に考えるべきではありません。</p> <p>既存の住宅の窓の断熱性を向上するために窓を交換するのは廃棄物の面からも重量増による強度の問題からもあまりお勧めできません。それより、窓を 1 枚加えるなどの重ね着の考え方が良いと思います。</p>